

日本地域看護学会委員会報告

## 日本地域看護学会定義に基づく2040リサーチアジェンダ24と 次世代の地域看護の発展に向けて

2022年度次世代育成推進委員会

日本地域看護学会誌, 26(1): 92-95, 2023

次世代の地域看護を担う人を応援する活動をするために次世代育成推進委員会（以下、当委員会）が設置された。社会の変化は著しく、地域看護への期待や役割は一層増していると思われる。2021年度、日本地域看護学会（以下、本学会とする）では次世代研究活動推進チーム（田高悦子委員長、大森純子委員、永田智子委員、石丸美奈委員、蔭山正子委員）を中心に、2040年に向けて地域看護で推進すべき「日本地域看護学会定義に基づく2040リサーチアジェンダ24（以下、リサーチアジェンダ24）」を作成した。

次世代の地域看護を発展させていくためには、研究や実践を担う若手人材の育成が不可欠になる。そこで若手を中心とした委員で当委員会を構成し、戦略を練った。2022年10月には“YouTubeはじめました”という企画を実施し、同年12月よりコミュニケーションアプリケーションソフトウェア「LINE」のオープンチャットサービスを利用した「地域看護の次世代を考えるグループ」を開設している。本稿ではリサーチアジェンダ24作成の経緯から当委員会のこれまでの活動と今後について報告する。

### I. リサーチアジェンダ24作成の経緯

2040年の日本の社会は、超少子高齢社会とともに人口減少社会とされる。その影響は、産業、経済、教育、社会保障、人々の価値観等、あらゆる側面で言及され、“ジャパンシンドローム”とも称されている。本学会では、2040年を見据えて地域看護学の再定義を2019年に行った<sup>1)</sup>。「地域看護学」を保健師、助産師、看護師の看

護職に共通して求められる知識や能力を培う、基盤となる学問として位置づけ、以下のように定義した<sup>1)</sup>。

- 1) 地域看護学は、人々の生活の質の向上とそれを支える健康で安全な地域社会の構築に寄与することを探求する学問である。
- 2) 地域看護は、人々の健康と安全を支援することによって、人々の生活の継続性を保障し、生活の質の向上に寄与することを目的とする。
- 3) 地域看護学は、多様な場で生活する、さまざまな健康レベルにある人々を対象とし、その生活を継続的・包括的に捉え、人々やコミュニティと協働しながら効果的な看護を探究する実践科学である。

この地域看護学の再定義を一層発展させ、2040年の日本はもとより、世界の人々の健康と環境の変化を予測し、かつ適切に対応することが必要である。そのため、本学会では、重点的に取り組むべきリサーチアジェンダを明確にする必要があると考えた。

### II. リサーチアジェンダ24の作成過程

次世代研究活動推進チームメンバーは、2021年7月にリサーチアジェンダを明確にするための方法を検討し、同年10月から2022年2月に理事・監事、代議員5人、代議員以外の学会員5人にインタビューを行った。その結果を踏まえて、「地域看護学」再定義（2019）に基づく“2040リサーチアジェンダ”骨子（案）および同戦略（案）（以下、ドラフト）を作成した。次に、2022年2月から3月に代議員を対象としてパブリックコメントを募集、同年3月から4月に全会員を対象としてパブリック

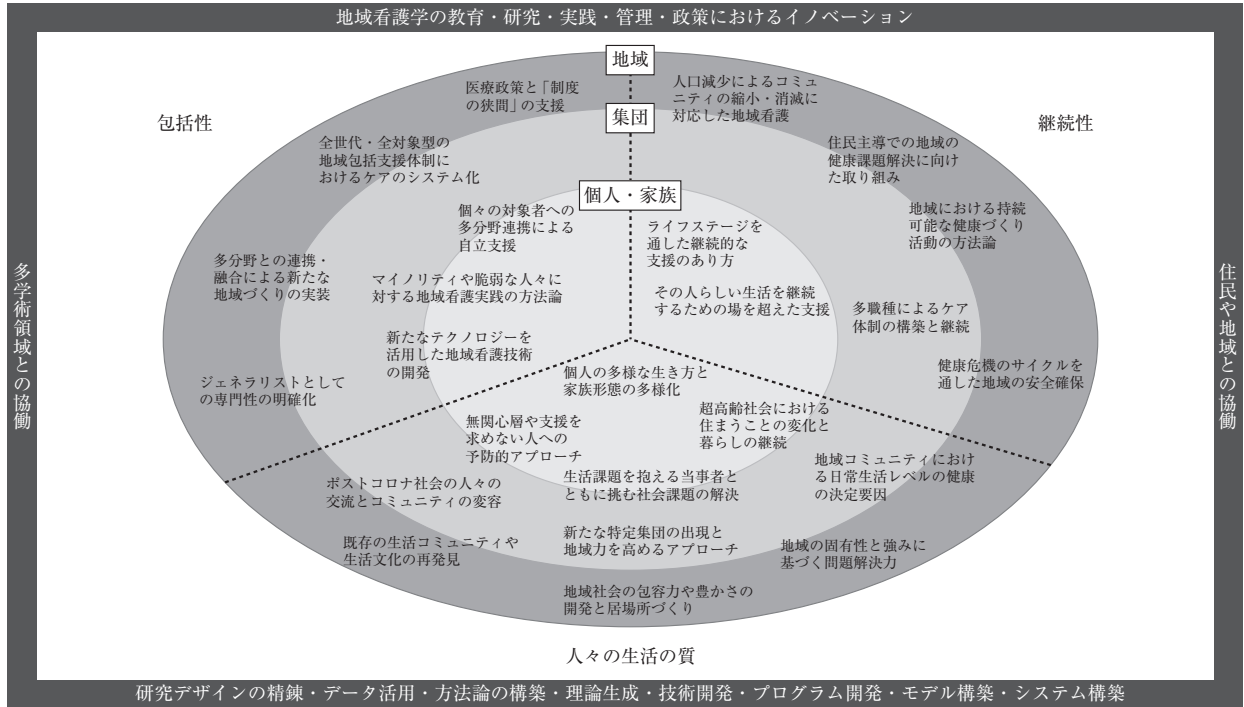


図1 日本地域看護学会定義に基づく2040リサーチアジェンダ24

コメントを募集した。ドラフトに改定を重ね、同年4月にリサーチアジェンダ24および「2040リサーチアジェンダ24の達成にむけた戦略の柱」(以下、戦略の柱)を完成させた。同年5月に理事会承認、6月に会員集会報告を行った。

### Ⅲ. リサーチアジェンダ24の枠組み

リサーチアジェンダ24は、地域看護学の再定義(2019)に含まれた、1)人々の生活の質、2)継続性、3)包括性の観点から、重点的に取り組むべきリサーチアジェンダとして抽出した24のテーマである。テーマは、地域看護学の対象である個人、家族、集団、地域を考慮して図示している。なお、地域看護学の定義と1)~3)の観点については、今後も継続的に探究されることを前提としている。図1の上辺「地域看護学の教育・研究・実践・管理・政策におけるイノベーション」は、リサーチアジェンダが目指す目標であり、下辺の「研究デザインの精練・データ活用・方法論の構築・理論生成・技術開発・プログラム開発・モデル構築・システム構築」は、リサーチアジェンダに用いる主な手法である。また地域看護学および地域看護実践が、専門・非専門を問わず、また領域や分野を越えて、さまざまな人々との

連携やパートナーシップを重視していることを踏まえ、主なパートナーとして、右辺に「住民や地域との協働」を、また左辺に「多学術領域との協働」を掲げた。

## Ⅳ. リサーチアジェンダ24の内容

### 1. 人々の生活の質

- ①個人の多様な生き方と家族形態の多様化、②無関心層や支援を求めない人への予防的アプローチ、③超高齢社会における住まうことの変化と暮らしの継続、④生活課題を抱える当事者とともに挑む社会課題の解決、⑤ポストコロナ社会の人々の交流とコミュニティの変容、⑥地域コミュニティにおける日常生活レベルの健康の決定要因、⑦新たな特定集団の出現と地域力を高めるアプローチ、⑧既存の生活コミュニティや生活文化の再発見、⑨地域社会の包容力や豊かさの開発と居場所づくり、⑩地域の固有性と強みに基づく問題解決力

### 2. 継続性

- ⑪その人らしい生活を継続するための場を超えた支援、⑫ライフステージを通じた継続的な支援のあり方、⑬多職種によるケア体制の構築と継続、⑭健康危機のサイクルを通じた地域の安全確保、⑮地域における持続可

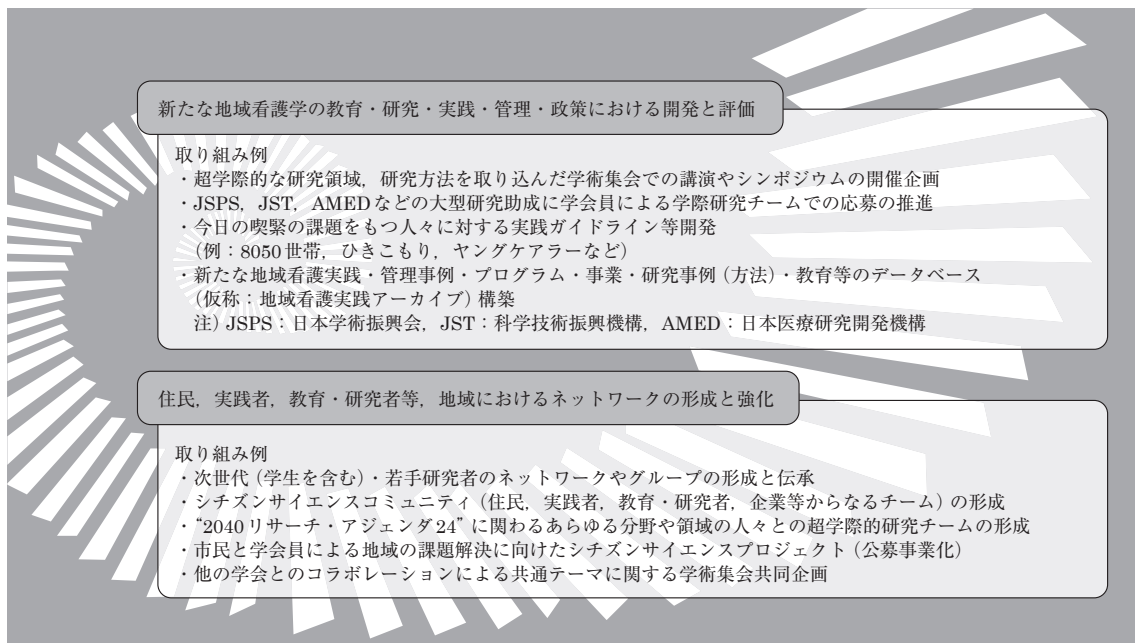


図2 2040リサーチアジェンダ24の達成に向けた戦略の柱

能な健康づくり活動の方法論, ⑯住民主導での地域の健康課題解決に向けた取り組み, ⑰人口減少によるコミュニティの縮小・消滅に対応した地域看護

### 3. 包括性

⑱新たなテクノロジーを活用した地域看護技術の開発, ⑲マイノリティや脆弱な人々に対する地域看護実践の方法論, ⑳個々の対象者への多分野連携による自立支援, ㉑ジェネラリストとしての専門性の明確化, ㉒多分野との連携・融合による新たな地域づくりの実装, ㉓全世代・全対象型の地域包括支援体制におけるケアのシステム化, ㉔医療政策と「制度の狭間」の支援

## V. 戦略の柱

リサーチアジェンダ24の達成に向けた戦略の二大柱を図2に示した。1つの柱は、「新たな地域看護学の教育・研究・実践・管理・政策における開発と評価」であり、もう1つの柱は、「住民、実践者、教育・研究者等、地域におけるネットワークの形成と強化」である。また各柱のもとに、具体的に想定しうるさまざまな取り組みや事業の例も提示した。たとえば、前者には、いまだ十分な方策が確立していない喫緊の課題を有する地域の人々や今後出現する新たな対象集団に対する新たな地域看護学の開発と評価にかかる取り組み等を含め、後者に

は、リサーチアジェンダ24を担う次世代の人材育成にかかる取り組み等を含めた。本戦略は、本学会が依拠すべき倫理上の基本原則と理念を定めた「日本地域看護学会倫理綱領」<sup>2)</sup>の遵守を前提にしたものであり、本学会の趣旨である人々の健康と福祉に寄与し、また広く社会に還元するよう一層努めるものである。

## VI. 次世代育成推進委員会の取り組み

### 1. 若手人材の育成上の課題と新たな取り組み

リサーチアジェンダ24の研究を発展させていくために、次世代の地域看護を発展させる研究や実践を担う若手人材の育成が不可欠である。本学会では、当委員会が新たに設けられた。そこでは、若手人材の育成上の課題として、次の4つのトピックが挙げられた。①住民と協働した研究の難しさ, ②若手研究者間／研究者と実践者間のネットワーク形成機会の不足, ③アフターコロナの研究・実践・教育活動に関する情報不足と疲労感, ④若手研究者が研究アジェンダを深める機会の不足である。これらの課題の背景には、業務の多忙さと学外関係者との接点の不足が共通項としてある。そこで、「教育業務の多忙さに配慮したうえで、悩みを共有したり、研究・実践を各自が深めていったりするためのリソースをつくる必要がある、その手段の1つとして、普段接点がないような他者の経験や知識に接する場をつくる必要があるだ

ろう」と、10月には“YouTubeはじめました”という企画を実施し、12月よりLINEオープンチャット「地域看護の次世代を考えるグループ」を開設した。オープンチャットでは、修士課程・博士課程の研究者や、大学等の教育・研究機関で研究活動を開始したばかりの方の参加があった。

次に、「地域看護の次世代を考えるグループ」参加者で「地域看護次世代育成トークチャンネル」を企画した。第1回テーマは「研究成果の発信のときにモヤモヤマゴマゴすること」である。研究成果をさまざまところに発信したり、論文執筆したりするときに感じるちょっとした疑問やモヤモヤを気軽に身近な先輩に聞けるように考えた。これらはYouTubeのライブ配信で、本学会のYouTubeチャンネルにて公開する。

これらの新しい取り組みが、さらなる新たな企画やネットワークにつながっていくことを期待している。

#### 【文献】

- 1) 地域看護学術検討ワーキンググループ：日本地域看護学会委員会報告「地域看護学」の再定義；第22回学術ワークショップから。日本地域看護学会誌, 23(1)：76-80, 2020.
- 2) 日本地域看護学会：一般社団法人日本地域看護学会倫理綱領。  
<http://jachn.umin.jp/ethics.html> (2023年2月7日)

#### 2021～2022年度次世代育成推進委員会

委員長：蔭山 正子 (大阪大学高等共創研究院)

副委員長：石丸 美奈 (千葉大学大学院)

委員：川崎 涼子 (長崎大学)

板谷 智也 (金沢大学)

松永 篤志 (東北大学大学院)

成瀬 昂 (SOMPOインスティテュート・プラス株式会社)

松井 理恵 (群馬大学大学院)